

○高野美栄* 吉岡徹** 斎藤祥子*³ 蒲池香津代* 家永晶子*⁴ 高木くに子*⁵

(*東京家政学院短大 **大妻女子大 *³北海道教育大 *⁴樟蔭東女子短大

*⁵中京短大)

<目的>

高齢者の年齢別を対象に、黑白図柄に色彩要素を加えた時、図柄の好みがどのように変化するかを検討する。

<方法>

第7報と同様の手続きで、65～74歳を高齢者前期、75歳以上を高齢者後期の二つに分け、黑白図柄と色柄の好みの結果を基に、図柄の好みの順位変化と和柄、洋柄といった図柄の好みの傾向について、年齢別特性を明らかにする。

<結果>

高齢者前期と後期共に好まれる図柄としては青海波Sや木の葉Pが上位を占めている。高齢者前期の上位にはS・Pの他、千鳥格子J、鮫小紋O、水玉D、花柄Uなどがあるが、色による変動は大きい。赤・黄・緑・青・紫の順に、Jは6位－2位－4位－2位－4位。Oは4位－13位－8位－7位－2位。Dは5位－9位－3位－3位－6位。Uは3位－14位－9位－13位－9位と順位に差がある。しかし、緑と青、紫と赤の間に図柄の好みに共通の傾向も見られる。高齢者後期の上位の鮫小紋O、水玉Dの傾向は前期に類似しているが、円や三角形を重ねた幾何学文のNやVは、どの色に対しても嗜好の高いものが見られる。和柄、洋柄、その他の柄、の3種分けた色毎に、前期と後期でクロス集計すると高齢者前期は洋柄の嗜好が高く、高齢者後期は和柄と、幾何学文を含むその他の柄に対して嗜好が高いことが示された。